

平成 21 年 2 月 6 日

独立行政法人
鉄道建設・運輸施設整備支援機構
理事長 石川 裕己 殿

事業評価監視委員会
委員長 家田 仁

九州新幹線（新八代・鹿児島中央間）の事後評価について（意見書）

1. はじめに

本内容は、九州新幹線（新八代・鹿児島中央間）の事後評価に係る事業評価監視委員会の意見を述べるものである。

2. 意見の内容

九州新幹線（新八代・鹿児島中央間）の事業は、事業効率、事業による効果・影響などを審議した結果、事業の主たる目的の達成状況が確認され、当初想定されていた整備効果は、概ね得られているものと判断する。

なお、今回の評価対象区間は段階的に整備が進められてきた区間であり、今後、博多・新八代間の開業により博多・鹿児島中央間全線の整備が完了する段階となると、複合した効果が発現することが考えられる。

このため、当委員会では以下の 2 点を期待する。

- ① 今後、博多・新八代間の評価を行う際には、博多・鹿児島中央間の効果についても検証すること
- ② 他の区間において事業評価を行う際には、区間別の評価とともに、路線全体の評価等と区間別の評価との関係性を様々な観点から検討を進めていくこと